令和７年度・第２回会報　第３１回

令和7年9月18日　30年中間貯蔵施設地権者会　会長　門馬　好春

本年6月中旬からの主な活動内容を第31回会報としてお届けさせて頂きました。まだ残暑が厳しい中ですので、お身体をご自愛下さいますようお願い申し上げます。

1.【門馬顧問、横浜国大の先生卒業生と交流】

門馬顧問が7月16日横浜国立大学高橋弘司先生と同大学卒業生（テレビ朝日広報部員、双葉社編集部員、NHK　記者）とライン共同通話により、中間貯蔵施設の最終処分場などについて話し合いをしました。

2.【80周年原水爆禁止世界大会・福島大会】

門馬会長が7月26日パルセいいざかで開催されました80周年原水爆禁止世界大会・福島大会で登壇し、中間貯蔵施設の不条理を多くの方々に知っていただき、同じ繰り返しをしないことと2045年3月12日までに福島県外最終処分場に搬入したすべての汚染土を搬出し事業を完全に終了させる取り組みなどを説明しました。インパクト出版会川満代表が会場に持参した「未来へのバトン」は完売いたしました。

3.【門馬会長、おれたちの伝承館で交流】

7月31日小高のおれたちの伝承館で中筋純館長から説明を受け、東日本国際大学長谷川健司先生や同学生さん並びにワシントン州立大学でハンフォードの研究者ロバート先生や同大学・コロンビヤ大学の学生さんとの大切な交流となりました。

4.【中間貯蔵施設に立ち入り】

8月3日門馬会長が追手門学院大学田中正人先生、東北大学窪田亜矢先生、福島大学西田奈保子先生、おれたちの伝中筋純館長と大熊町夫沢字長者原の中間貯蔵施設に立ち入り、同施設の課題や問題点について説明しました。

5.【環境省との交渉】

8月20日都内で門馬会長が作本副会長他会員1名と共に個人交渉を団体交渉と同じ内容で実施いたしました。その中で今年度までの環境省不動産鑑定評価書等の誤りを糺し見直しを求めました。作本副会長からも仮置場との用地補償の不公平について指摘をしました。中間貯蔵施設の原状回復については仮置場と同様、除染と田圃の機能回復を求めました。環境省反論は次第に声が小さくなり、門馬会長の編著「未来へのバトン」に対する指摘も一切ありませんでした。

6.【龍谷大学生との交流】

9月2日門馬会長と湯本の原子力災害考証館 furusato で京都の龍谷大学築地達郎先生と学生さん14名と交流会を開きました。学生さんたちは考証館での展示を見学後、交流会では里見館長からの挨拶に続き、門馬会長から中間貯蔵施設の課題と問題点の説明を受けました。その後は学生さんからの質疑応答となり、有意義な出会いの場となりました。

7.【環境省のパネルディスカッションに参加】

8月28日のパルセいいざか「門馬会長オンライン参加」に続き9月5日（6日も開催）大

手町で県外最終処分に向けた環境省の取り組みについてのパネルディスカッションが開催され門馬会長が参加しました。環境省の説明は内容も説得力に乏しく、環境省の誠意が感じられませんでした。マスコミ取材では福島県外最終処分場の選定が最優先であること、選定先は無人島「馬毛島案」・羽田空港滑走路「増設含む」での再利用とあわせて東京湾や神奈川県、千葉県の東電火力発電所の埋め立て再利用そして福一原発の港を活用した船舶搬送が現実的であることを説明しました。

8.【環境省に熊被害防止・火災防止の除草など継続申し入れ】

5月環境省に中間貯蔵施設の現場で除草や樹木伐採を要請し、8月20日の環境省回答は納得できない中、9月1日大熊町夫沢字長者原の国道6号で熊が確認されました。環境省には引き続き申し入れてまいります。

9.【その他】当会のHPにも掲載しております

①門馬会長、7月24日都内で福島大学名誉教授山川充夫先生と交流

②8月2日福島民報におれたちの伝承館での門馬会長等との交流の様子が掲載

③門馬会長、8月10日都内でニューヨーク市立大学福井朋生先生と交流

④門馬会長、作本副会長、8月 27 日毎日新聞に汚染土新工程表へのコメント掲載

⑤8月27日新潟新報社に汚染土新工程表への会長コメント掲載（取材共同通信社）

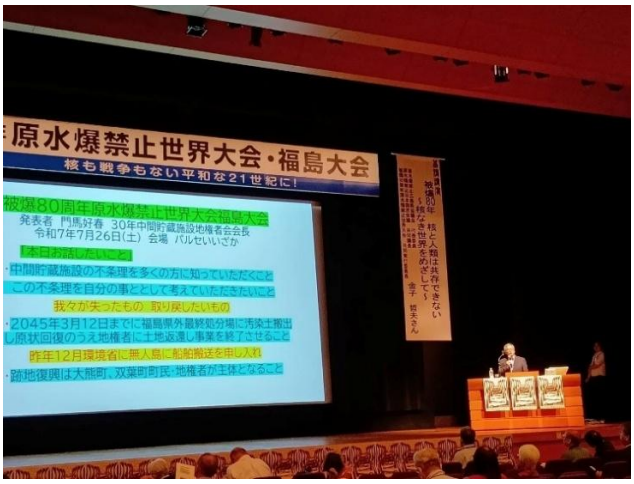
⑥門馬会長、9月7日毎日新聞に9月2日龍谷大学との交流の様子が掲載

⑦中間貯蔵施設などに関するイベントを10月18日双葉町伝承館で開催予定

⑧環境省による当会への説明会開催の日程調整「11月下旬～12月上旬」

8.【写真】

「原水爆禁止世界大会・福島大会の様子」



「8月20日環境省との交渉の様子」

「7月31日おれたち伝承館での交流の様子」

「9月2日龍谷大学学生さんとの交流の様子」

〈門馬会長の編著「未来へのバトン」のチラシ〉

本は Amazon でも求められます。 図書館に「未来へのバトン」のリクエストもよろしくお願いいたします。